



## 方言と共通語の使い分け

多くの人は、方言と共通語の両方を使い分けて生活をしていきます。

家族や親しい友人など身近な相手と話すときや、日常的な場面で気軽な会話をするときには、方言で話すことが多いでしょう。一方、面接のような改まった場面や、講演会のような公の場所で話すとき、テレビのニュース番組のような不特定多数の人々を相手に話すときには、共通語を使うことが多いといえます。





また、自分と異なる地域の人や初対面の人、あまり親しくない人などと会話する場合も、共通語で話すことが多い

といえるでしょう。

## 方言のアクセント

方言と共通語は、同じ単語でもアクセントが違うことがあります。アクセントのきまりは、それぞれの方言によって異なります。

例えば、同じ「アメ」という単語でも、「雨」「飴あめ」それぞれ共通語と京都方言では下の表のような違いがあります。

	共通語	京都方言
雨		
飴		

## 確かめよう

1 次のことばについて、自分の地域の方言が共通語と違う点はないか、考えよう。

- ① かたつむり
- ② とうもろこし
- ③ 大きい
- ④ 書かない

2 自分の地域の方言では、次の単語をどのようなアクセントで発音しているか、確かめよう。

- ① 暑い
- ② 厚い

3 自分のふだんの話しことばの中で、「方言」と「共通語」を使い分けている場面を考えよう。